



No. 3

令和7年
6月18日すずか幼稚園
第2すずかきしおか幼稚園

通園バス通報訓練

熱中症が気になる季節になってきました。

この季節になると、ニュース等で車への幼児の置き去りが報道されます。特に、数年前の夏季に話題となった幼稚園や保育園の通園バスでの痛ましい事故が思い出されます。あのような事故の後、全国の通園バスには、置き去りにされた際に園児が外部に知らせるための通報装置の設置が義務付けられました。

あってはならないことですが、もし園児が一人で通園バスに取り残され、施錠された場合に、外部に知らせる装置があれば、知らせることができます。また、取り残されるといった出来事が生じないように、バスのエンジンを切った時からチャイムが鳴り、バス内部の最後部にあるブザーを押さないとチャイムが警報音に変わるという装置もあります。

本園では昨年度より、こうした通園バスの通報装置を緊急時に子どもたちが使用できるようにと、通報訓練を実施しています。

昨年度は7月に実施しましたが、近年は熱中症の発症例が早く練ってきていることから、本年度は6月2日(月)に下のような手順で実施しました。

- ①クラス別などのグループで通園バスに乗車する。
- ②通園バス内に取り残された際の外部への通報方法を聞く。
- ③通園バスのエンジンを切ると、車内にチャイムが鳴り、運転手さんが車内を確認しながら一番後ろにあるボタンを押す。
- ④取り残された際に押す「たすけて ぼたん」を代表の園児が押す。
- ⑤その他の手段として、代表の園児がクラクションを鳴らす。

当日は、すずか幼稚園には昨年度に引き続きCBCテレビが取材に入り、夕方のニュース番組で報道されました。

「車内への取り残し」は、通園バスだけとは限りません。ご家庭でも、お子さまが『車内で寝てしまっているから、エンジンをかけて寝かせておこう』と大人が車外に出ていて、車のトラブルからエンジンが切れてしまい、エアコンが効かない状態になってしまうこともないとは言えません。そうした場合にクラクションを鳴らすという行動が取れるようにもできるのではないかと考えます。

屋外に置かれた車は、エアコンが動いていないとすぐに温度が上がり、車内にいることができない状態となります。ご家庭におかれましても、こうしたことを十分にご理解いただければと思います。



プール開き

本年度のプール開きは、6月11日(水)に行いました。当日は小雨の降るあいにくの天候で、すずか幼稚園では雨の合間を縫って、第2すずかきしおか幼稚園ではテラスからプールに向かってお詣りしました。

すずか幼稚園でも第2すずかきしおか幼稚園でも、園プールは組み立て式のプールです。この日までにそれぞれの園でプールを組み立てて、理事長先生の唱える般若心経に合わせ、プールに向かって年長組が手を合わせました。

プール開きの際のプールの「お祓い(おはらい)」では、神様のご加護と恩恵を得られるようにと、お酒や塩、お米などをお供えしますが、「神様が込め(米)られたもの」「難を避けます(酒・杵)」などの説もあるそうです。

般若心経のお参りの後、プールの四隅に清めのお酒や塩、お米をまき、今年の園プールでの安全と水の事故に遭わないようにとお祈りをしました。



親は子に何を教えているのか？

- ◎親は子に、物事に対する自分の「感じ方・見方・考え方・心の持ち方」を見せて、「感じ方・見方・考え方・心の持ち方」を教えている。
- ◎親は子に、物事に対する自分の「構え方や態度の取り方・立場の踏まえ方」を見せて、「構え方や態度の取り方・立場の踏まえ方」を教えている。
- ◎親は子に、自分の生活全体を通して、「して良いことと悪いことの基本」を教えている。
- ◎親は子に、自分の全行動を通して、人として「何が大切なのか」「何をすべきなのか」を教えている。
- ◎親は子に、自分の他者に対する関わり方を通して、「人間の見方」「人の絆とは何か」を教えている。
- ◎親は子に、自分の生活の仕方を通して、「お金に対する考え方や使い方」を教えている。
- ◎親は子に、自分の生活の仕方を通して、「時間に対する考え方や使い方」を教えている。
- ◎親は子に、子ども自身や他者に対する構え方や態度を通して、「親とは何か」「人を愛するとは何か」を教えている。
- ◎親は子に、自分の社会への関わり方を見せて、「社会への関わり方」を教えている。
- ◎親は子に、自分の「生き方・在り方」を見せて、「どのように生き、どのように在るのか」を教えている。

(山田暁生著:「生き抜く知恵を子どもにどうつけるか」より)